



歯を喪失する原因として歯根破折が多いということはおそらく知られていない。特に神経の治療をした後は折れやすい。それは歯冠の上部を切削するため、力が加わるとまき割りのように歯が折れてしまうからだ。歯は折れてしまうと残すことが困難になる。



そこで破折防止のために考えられたのが接着とグラスファイバーを用いた土台である。グラスファイバーは歯牙とほぼ同じ熱膨張を持ち弾性力もあるため、土台の芯棒として最適である。これをプラスチックで被包すると強度的にも十分な土台

## 保険適応の材料 拡大を

□□ 34 □□

となる。この土台を歯のコーラゲン部分に接着するのだが、きれいなコーラゲンの面でないとは接着力が十分に得られない。歯根内部は神経の治療に使用したセメントや樹脂が残っており、完全に除去するのが意外と難しい。

現在芯棒として保険適応になっているのは金属のタイプ。先日テレビでグラスファイバーが保険適応になると紹介されたが、補綴学会専門医が条件であるなどハードルが高いので、全ての歯科医院でできるわけではない。

また工業用のグラスファイバーは安価だと聞かすが、歯科用は非常に高価なことも汎用されない理由である。医療用として申請され許可が下りるまでに多くの金額がかかるのだそうだ。

歯科医療は医科に比べ多くの歯科材料を使用するため、材料費がかさめば採算がとれないこともある。早く良い材料を使用できるようにお願いしたい。